囲碁全国大会で準優勝

長崎の田中亜樹さん(6)「プロになりたい」

小学校に入る前の子どもを対象にした囲碁の全国大会「第13回渡辺和代キッズカップ」が3月30日、日本棋院東京本院であり、長崎市界2丁目の田中亜樹さん(6)が準優勝しました。亜樹さんは石を取る攻めの手がうまく「プロになりたい」と話しています。

長崎市こども囲碁教室ネットワークの佐藤義弘会長によると、全国から100人を超える子どもたちが出場。亜樹さんは予選リーグを3戦全勝で突破し、本選を勝ち進みました。

母千寛さんによると、亜樹さんは4歳のときに囲碁を始めました。6歳上の兄・杏路さんが通う市内の囲碁教室に、双子の兄・寿樹さんと一緒に行き始めました。兄・杏路さんは小学生の県代表として全国大会に何度も出場した強豪です。

亜樹さんはいま、週2回ほど佐藤会長の教室に通い、自宅では兄・杏路さんに挑戦しています。敗れて大泣きすることがあるほど負けず嫌いだそうです。そのため対戦より、対局の手順を記録した棋譜並べが好きで、毎日こつこつとプロの手を学んでいます。自分の棋譜も取るようになり、詰め碁もしています。めきめきと腕を上げ、教室でアマチュア5、6段の大人に勝つこともあります。

佐藤会長は「よく手が見えるので、ちょっとした隙を捉えて石を取る。とにかくすごいスピードで強くなった」と評します。大会に出場する機会にプロ棋士に手合わせをしてもらっており、「普通の子どもと違う」「天才的な能力を備えている」と強さに驚くプロ棋士がいると明かします。

教室の他の指導者も「感覚が良い」「棋譜並べで大局観が備わってきた」と実力をたたえます。

4月から日見小に通う亜樹さん。「2位はくやしいけれど、2位に入ったことはうれしい。プロになりたい」と笑顔を浮かべました。

(坂本文生)

全国大会で準優勝した田中さん。週2回、囲碁教室で腕を磨く　＝長崎市魚の町、市民会館